

授業科目 検査測定評価学実習

当教員名]	対象学年	2	対象学科	理学
小林量作 古西 勇 相馬俊雄	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60

<一般目標：G I O>

本授業では、前期で学んだ検査測定評価学を臨床実習で応用できるよう実施技術の習得を目的とする。特に関節可動域検査、徒手筋力検査を重点的に行う。また、模擬事例を通じて評価技術の統合を図る。実施技術を習得するには反復練習が必須であり、授業以外でも学生同士で練習することが必要である。

<行動目標：S B O>

1. 関節可動域検査の目的・方法、影響する因子、健常者の可動域などを習得する。
2. 関節可動域検査の技術を習得する。
3. 筋力検査の目的・方法、影響する因子、健常者の可動域などを習得する。
4. 筋力検査の技術を習得する。
5. 事例を想定した検査・測定が実施でき、評価の統合を学ぶ。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1~2	関節可動域検査 (総論)	1	講義 小林
3~4	関節可動域検査 (上肢)	2	実習 小林 (古西・相馬)
5~6	関節可動域検査 (下肢)	2	実習 小林 (古西・相馬)
7~8	関節可動域検査 (体幹・手指)	2	実習 小林 (古西・相馬)
9~10	関節可動域検査 (柔軟性テスト)	2	実習 小林 (古西・相馬)
11~12	筋力検査 (総論)	3	講義 小林
13~14	筋力検査 (上肢)	4	実習 小林 (古西・相馬)
15~16	筋力検査 (下肢)	4	実習 小林 (古西・相馬)
17~18	筋力検査 (体幹)	4	実習 小林 (古西・相馬)
19~20	筋力検査 (手指、顔面)	4	実習 小林 (古西・相馬)
21~22	筋力検査	4	実習 小林 (古西・相馬)
23~24	事例提示 (関節可動域、筋力)	5	講義・実習 小林 (古西・相馬)
25~26	その他の評価	5	講義・実習 小林 (古西・相馬)
27~28	事例提示 (全ての評価)	5	講義・実習 小林 (古西・相馬)
29~30	事例提示 (全ての評価)	5	講義・実習 小林 (古西・相馬)

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	理学療法評価学	松沢 正著	金原出版	1998年 6200円
	新・徒手筋力検査法 (Muscle Testin 6th)	津山直一訳	協同医書出版	1996年 6695円
参考書	ベッドサイドの神経の診方	田崎義昭・他著	南山堂	1994年 7200円
	Muscle Testing and Function(4th)	F.P Kendal Williams & Wilkins		1993年 10658円
その他の資料	理学療法評価学	内山 靖編	医学書院	2001年 5800円

評価方法]	【履修上の留意点】
出席、レポート、実技試験、期末試験、その他	毎回、実技できる服装で出席すること。